発行：特定非営利活動法人 北海道みなとの文化振興機構 北海道みなとの文化研究室　　発行日：令和８年（2026）10月30日

北海道 みなとまち紀行

厚岸編①

第16号

■厚岸編①

厚岸町は、東北海道では最も早く開けたところで、松前藩によるアッケシ場所の開設は寛永年間（1624～1644）とされ、文化元年(1804)には蝦夷三官寺の一つとして国泰寺が建立されるなど、東北海道開拓の玄関として、また道東文化発祥の地として栄えました。厚岸湾は深く入り込んだ入り江で、大黒島や小島が湾口に位置し、古くから風浪を防ぐ良港として利用されてきました。明治期以降はこの天然の良港を生かして漁業と海運が発達し港の周辺に市街地が形成されていきました。

今回の北海道みなとまち紀行・厚岸編①では桜の名所「子野日公園」を散策したのち、歴史や文化を学ぶため「厚岸町海事記念館」や「厚岸町郷土館」、「国泰寺跡」等を訪問します。そのあと自然に係る名所、施設として「愛冠岬」や「愛冠自然史博物館」等を見学し、そののち厚岸町の主要産業である漁業関連施設の「厚岸漁港屋根付き岸壁」や「厚岸漁協直売店（エーウロコ）」等を訪問します。

【子野日公園】

「子野日公園」は、奔渡（湖南地区）にある公園で、厚岸湖を見下ろす高台にあります（**地図①**）。ここは道東でも有数の桜の名所として知られ、「町の木」であるエゾヤマザクラ（オオヤマザクラ）の他、ヤエザクラ等の約1,200本の桜が5月上旬から下旬にかけて次々と咲き誇り、国泰寺と並ぶ桜の名所となっています。散策路頂上にある桜見本園では、北海道では珍しいフゲンゾウという桜も花を咲かせます。

あっけし望洋台から厚岸湾口を望む

「子野日公園」

この公園は大正12年(1923)から昭和10年(1935)まで厚岸町長を務めた子野日弘毅氏が所有していた約12万㎡に及ぶ山林を私費で拓き桜を植樹して造園したもので、もとは「翠湖園」という庭園でした。昭和37年（1962）に、厚岸町が寄贈を受け「子野日公園」と名付けられ厚岸町の公園となりました。ここでは、毎年春の「桜・牡蠣まつり」、秋の「牡蠣まつり」等各種イベントの会場として多くの人に親しまれています。春の「桜・牡蠣まつり」は、桜が咲く5月上旬～中旬頃に開催され、新鮮な牡蠣や、大粒のアサリ等近海で採れた魚介類が販売されます。公園では炭火焼き台をレンタルできるので、新鮮な魚介類を食べながらお花見を楽しむことができます。また、秋の「牡蠣まつり」は11月中旬頃に開催されますが、牡蠣の他、旬を迎えるサンマも味わうことができ、春の「桜・牡蠣まつり」と同様、炭火焼き台で旬の海産物を味わうこ

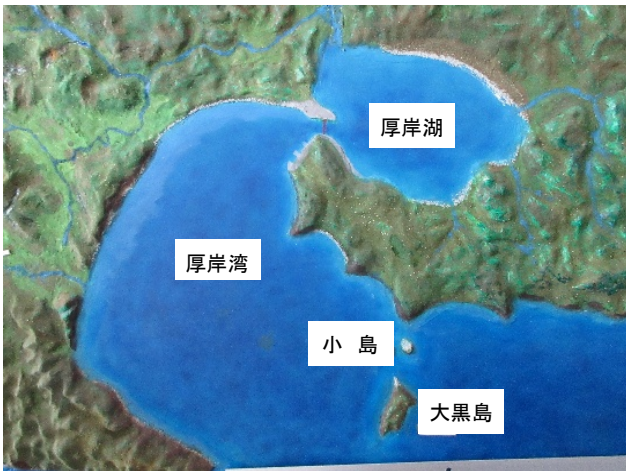
とができます。これらのお祭りでは、日によっては牡蠣やアサリのつかみどりのイベント等もあり人気となっています。

【厚岸町海事記念館】

「子野日公園」から真栄の「厚岸町海事記念館」へ向かいます（**地図②**）。「厚岸町海事記念館」は海と街の密接な関りを展示する施設として昭和63年（1988）に厚岸町開基 190 年を記念し、厚岸町役場庁舎前に開館しました。この施設と、隣接する厚岸町役場、それらの間にある町民広場は一つの巨大な船に見えるように設計され、海事記念館は船首、町民広場は甲板、町役場は船尾に見立てられています。ここでは厚岸町の歴史、民俗、産業（特に海事に関するもの）等に関する資料を展示しています。

この施設と、このあとで訪問する「厚岸町郷土館」「国泰寺跡」は、厚岸町教育委員会の学芸員小田島賢さんに案内をお願いしました。小田島さんはこちらに来られてから 7 年目で現在、この施設の他「厚岸町郷土館」「太田屯田開拓記念館」の学芸員を兼任されています。またこちらへ来られる前は北海道教育委員会で勤務されていたそうです。

1 階のエントランスホールに入ると、ホールの奥の方に、厚岸町床潭沖から約 4km 離れたところにある大黒島にかかわる展示があります。この大黒という地名は、島の形が大黒天の頭のように見えるためだと言われています。この大黒島及びそれに連なる小島が厚岸湾の湾口にあることで天然の防波堤の役割を果たし、厚岸湾は古くから風浪

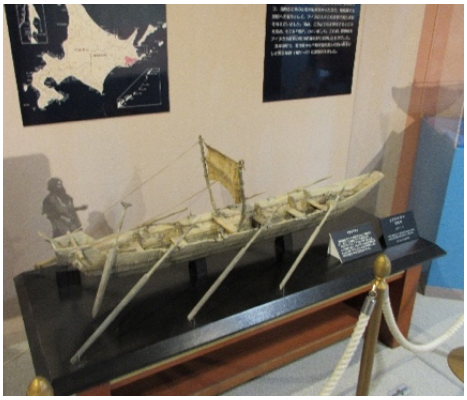


厚岸湾と大黒島の位置図

を防ぐ天然の良港として利用されてきました。この島は、ウミウ、コシジロウミツバメ等多くの海鳥の繁殖地として国の天然記念物（大黒島海鳥繁殖地）に指定されています。今は無人島ですが、戦時中は旧日本軍により要塞化され、高台には砲台があったそうです。

ホールに隣接する展示室に入ると、厚岸町の歴史に係るコーナーがあります。アイヌ民族に係るコーナーに展示されている「イタオマチプ（板綴舟）」は厚岸湖岸で昭和 62 年（1987）に発掘されたアイヌ民族の丸木舟の模型です。イタオマチプはアイヌ語で「板がついている舟」という意味で、一本の木をくりぬいて作った丸木舟を舟敷にし、両側の縁に舷側板（波よけの板）を紐で綴じつけて舷（船の側面）を高くした舟です。発掘された舟敷には舷側板はありませんでしたが舷側板を取り付けるための穴が規則正しく残っていました。現在、この舷側板のついた丸木舟は見つかっていませんが、舷側板を綴じ付けた穴の残っている舟

厚岸町海事記念館


アイヌ民族の丸木舟「イタオマチプ（板綴舟）」

捕鯨船イーモント号の残骸

敷は他に苫小牧で発掘されています。なお、この模型の元となった発掘された丸木舟は現在、令和2年（2020）開館の白老町の「国立アイヌ民族博物館（ウポポイ）」に貸与されています。

「姉妹都市クラレンス」のコーナーでは厚岸町とオーストラリアのクラレンス市が姉妹都市の提携を結ぶきっかけとなったイーモント号の残骸や遺物、クラレンス市との交流の様子を展示しています。オーストラリアのクラレンス市を出港した捕鯨船イーモント号は、嘉永3年（1850）5月22日夜半に厚岸町の末広沖にて座礁しました。乗組員は救助されましたが、松前藩の命令で異国の船であるイーモント号は焼却処分されました。その時に燃え残ったまま海に沈んだ船の一部が、昭和60年（1985）に引き上げられ展示されています。

厚岸町とクラレンス市は昭和57年（1982）に姉妹都市となり平成5年(1993)から交流が行われるようになりました。厚岸町といえば牡蠣が特産品ですが、その中でもシングルシード方式で養殖された牡蠣は「カキえもん」というブランド名で親しまれています。シングルシードは「一つの種」の意味で、従来のホタテ貝に多数の牡蠣の稚貝を付着させ養殖する方法と違い、細かく砕いた貝殻の一片に牡蠣の幼生・種苗を1個ずつ対にして付着させ養殖する方法で、オーストラリアで確立された技術でした。厚岸町では平成7年（1995）、クラレンス市の養殖施設を視察し、その後日本で初めてシングルシード方式の養殖の導入を行い、厚岸漁業協同組合とともに「カキ種苗センター」を建設し地元産の種苗を生産できるようにしました。この方式の導入により、従来の他地域から稚貝を移入して養殖していたホタテ貝の多数種苗に加え、地場産の種苗を用いた大きさや形のそろった身入りの良い厚岸牡蠣の養殖が可能となる道が開かれ、現在の「カキえもん」が誕生しました。

さらに進むと、「昔の生活用具」のコーナーや、「渡船」「海運」「漁船」「漁場」等のそれぞれの変遷のコーナーが続きます。

「渡船」に関して、現在、湖北地区と湖南地区は、昭和47年(1972)に開通した厚岸大橋(延長456.5m)で結ばれていますが、この厚岸大橋ができる前は古くから市街地が形成され行政機関も多かった湖南地区と、釧路方面からの鉄道の延伸により開発が行われてきた新市街地の湖北地区は厚岸湖で二分され、両岸を行き来することは容易ではありませんでした。このため、明治末期から架橋運動が行われたものの実現には至らず私営や町営の渡船により行き来していましたが、悪天候の際は、何日も途絶し交通が遮断されていました。昭和20年代の後半になると人口の増加や陸上輸送へのシフトといった情勢の変化から、渡船での連絡は限界を迎えたため、昭和34年（1959）に日本道路公団によるフェリーボート厚岸丸が就航しました。しかし冬季は流氷や結氷により欠航することが多く、ま

フェリーボート厚岸丸の模型

昭和 47 年(1972)厚岸大橋完成以前の厚岸湖を中心として二分されている市街地(上が湖北地区)

厚岸湖の牡蠣島の牡蠣礁

稚魚を放流される天皇・皇后両陛下

た昭和40年代に入ると自動車の保有台数が増加したため、この輸送方法も限界に達しました。そこで町民の強い要望もあり、架橋の調査が進められ、昭和 44 年（1969）、架橋工事に着工して昭和 47 年（1972）、北海道で初めての海上橋として厚岸大橋が完成しました。

このコーナーには厚岸大橋架橋前の、これらの「渡船」に係わる資料として、当時の厚岸湖で二分された市街地の両岸の街並みや厚岸丸の運航状況の写真、厚岸丸の模型等が展示されています。

次の「厚岸の漁業の歩み」のコーナーでは一般の漁業から始まり、加工、養殖の歴史等が展示されています。「捕鯨漁」「昆布漁」「牡蠣漁」に係る資料も展示されています。「牡蠣漁」のコーナーでは、牡蠣の養殖方法についての解説が展示されています。古くから行われてきた「地蒔（じまき）養殖」は厚岸湖の天然の牡蠣島を利用するものですが天然の牡蠣の生産量が減少したため、現在は後述する「垂下（すいか）養殖」で生産された稚貝を放流しながら生産が行われています。生産量は数量的には少ない現状にあります。この牡蠣島の牡蠣礁は湖底から2m ほどの高さになります。「垂下養殖」は他地域から稚貝を購入して、海に張ったロープにその稚貝の入った養殖かごをぶら下げて育成する方法です。「シングルシード方式」は「カキ種苗センター」で細かく砕いた貝殻の一片に牡蠣の幼生・種苗を１個ずつ対にして付着させ育成した 4mm 以上の地元産の稚貝を、かごに入れて養殖するものです。「カキえもん」ブランドの牡蠣はこの方法で養殖されたものです。これらの養殖方法の展示に合わせ「カキ種苗センター」による地元産の牡蠣種苗の生産方法も、母貝飼育、幼生飼育、採苗などの流れでわかりやすく解説していました。

２階には令和５年（2023）に厚岸町で開催された「第 42 回全国豊かな海づくり大会」に係る展示がありました。この大会は、水産資源の増養殖や海の環境保全への理解を深めるために昭和56年(1981)から毎年行われている国民的行事で天皇・皇后両陛下ご臨席のもと厚岸漁港の屋根付き岸壁特設会場で行われました。式典では天皇陛下がご挨拶され、令和 3 年(2021)に太平洋沿岸で発生した赤潮被害への関係者の取り組みに敬意を表されるとともに、「この大会を契機として、人々の海や漁業への理解と関心がさらに深まり、豊かな海づくりの環（わ）が北海道から全国へ、そして未来へ向けて広がっていくことを願います。」と述べられました。その後、作品コンクールの最優秀作文の発表等が行われた後、漁船等の海上パレードや両陛下によるマツカワとホッカイエビの稚魚の放流等が行われました。

その他、このフロアでは、山形県村山市と、厚岸町との友好都市提携に係る展示がありました。村山市は、厚岸をはじめとする北海道の探検を行った最上徳内（もがみとくない）の出身地でその縁で厚岸町と友好都市となっています。

なお、この２階には日本最東端とされるプラネタリウム室があり、季節ごとの星座の番組やアイヌ民族の星物語等が投影され子供たちの教育等に活用されています。

【厚岸町郷土館】

「厚岸町海事記念館」から湾月町の「厚岸町郷土館」へ行きます（**地図③**）。「厚岸町郷土館」は古くから栄えた厚岸町の歴史と文化を多くの人々に知ってもらおうと昭和42年(1967)に開館しました。

「厚岸町郷土館」

館内には、縄文・続縄文時代の土器等の考古資料、交易を通じてもたらされたキセルなどのアイヌ関係資料、江戸時代以降の厚岸のまちの歴史資料、近代以降の暮らしや漁業に関る資料などが展示され郷土の歴史の変遷がわかるようになっています。

埋蔵文化財関係資料では北海道指定史跡である、厚岸周辺の「神岩チャシ跡及び竪穴群」の下田ノ沢遺跡（続縄文～アイヌ文化期）から出土した下田ノ沢土器が展示されています。この土器は縄文時代に続く続縄文時代のもので本州では弥生・古墳時代と呼ばれる時期にあたります。粘土紐を貼り付けた幾何学的な模様が特徴となっています。

国泰寺関係資料では、国指定重要文化財「蝦夷三官寺国泰寺関係資料」の「日鑑記」（複写）が展示されています。「日鑑」とは“日々の鏡”という意味ですが、文化元年（1804）から文久3年（1863）までの60年間にわたって国泰寺の歴代住職によって書き継がれてきた記録です。ここには幕府の蝦夷地政策や異国船来航等に関する記述にとどまらず、地震や津波、畑作物の栽培、山菜採取等についても記録されており、また、アイヌ民族の人々に関する記述もあり当時の人々の生活を知る上でも貴重な資料と言えます。

また、正行寺関係資料として、国指定重要文化財「正行寺本堂」の歴史や沿革を示す古文書や記録類、本堂の移築・修理等建物の来歴を示す資料等が展示されています。

近年、北日本の太平洋岸では日本海溝・千島海溝地震の発生が懸念されていますが、過去3,000年間に北海道東部太平洋岸で発生した巨大地震津波の痕跡の地層断面の標本が展示されています。この地層断面は史跡国泰寺跡の地下から採取したものです。この標本では、茶色から黒色の泥炭層の間に、灰色の砂層が8層挟まれています。これは、普段、泥炭が堆積するような沿岸湿原に、巨大な地震津波が遡上し砂が堆積したことを意味しています。この砂層を顕微鏡で調べると、海に生息するプランクトンなどの死骸が見つかることからこれらの砂が海起源であることがわかります。前述した国泰寺の「日鑑記」には道東地域において最も古い地震津波の被災記録、即ち天保14年(1843)の十勝沖地震津波（Mt8.2　Mt：津波の大きさから推測されるマグニチュード）についての記述があります。これによると同津波によって、現国泰寺の眼前に広がる低地に建っていた旧会所あたりが“大海のように覆われ”、また“対岸のアイヌの住居が一軒も残らず流された”という記述が残されていますが、その時堆積した可能性がある堆積物の痕跡もこの地層断面に見受けられるそうです。(1)

下田ノ沢式土器（左）

国指定重要文化財「蝦夷三官寺国泰寺関係資料」の「日鑑記」（複写）

巨大地震津波の痕跡の地層断面

国泰寺跡　山門

山門の「葵の紋」

境内にある「老桜樹」

国泰寺　本堂

【国泰寺跡】

「厚岸町郷土館」から隣接する「国泰寺跡」に行きます（**地図④**）。江戸時代後期の 18 世紀末、ロシアの北千島南下等、北辺の危機が迫っていました。そこで徳川幕府は寛政 11 年（1799）、北辺防備のため東蝦夷地を、それまで統治していた松前藩から取り上げ幕府の直轄地としました。この時、幕府は東蝦夷地の人々の精神的な柱とするため文化元年（1804）、国泰寺（厚岸）と等澍院（様似）、善光寺（有珠）の三寺院を建立しました。

国泰寺は厚岸湾の北東に位置するバラサン岬のふもとに建てられ、古くから道東の桜の名所として親しまれている臨済宗の寺院で、昭和 48 年（1973）、国の史跡に指定されています。境内の建物は後世に建て替えられていますが、山門を経て本堂に至る一帯は鮮やかな緑色の苔むした庭園で由緒ある歴史の古い寺院の風情を伝えています。山門の扉には徳川家の家紋である「葵の紋」が刻まれており格式の高さを感じさせます。また境内にある「老桜樹」という桜は天保元年(1830)に奥州の石巻から移植されたと伝えられる樹齢 180 年を超えるオオヤマザクラの古木で高さは約 10m、幹回りは約 3m あります。現在でもたくさんの花を咲かせており厚岸町の指定天然記念物になっています。

国泰寺本堂には歴代住職が書き継いだ「日鑑記」をはじめとする国指定重要文化財「蝦夷三官寺国泰寺関係資料」が保管されています。

【正行寺本堂】

「国泰寺跡」から梅香の「正行寺本堂」に向かいます（**地図⑤**）。浄土真宗大谷派では、北海道の開拓にあわせて布教活動を行い、明治 12 年(1879)に厚岸説教所を開設しました。その後、同 14 年(1881)現在地に本堂を新築し、同 16 年(1883)に正行寺と公称しました。

現在の本堂は、寛政 11 年（1799）に新潟県西頸城郡西海村大字平牛（現糸魚川市）の浄土真宗満長寺本堂として創建されたもので、それを明治末に現在地に移築したものです。この建物は、平成 4 年（1992）、道東で最初の国の重要文化財に指定されています。

本堂の主要部分の構成は、正面中央の向拝（本堂から正面に張り出した屋根付きの部分で参拝者が礼拝するためのスペース）、軒下の周囲に巡らされるひさしと縁、礼拝のための外陣及び本尊を安置する内陣からなります。随所に施されている装飾は江戸期本堂の特徴であり、向拝軒下の菊や牡丹の彫刻模様、外陣の丸柱に設けられた木組み、内陣

「正行寺」本堂

参詣間から内陣を見る

内陣の欄間上部
鮮やかな極彩色の天女と牡丹

桜鶏図　板戸

「愛冠岬」から大黒島・小島を望む（左）と
「愛の鐘・ベルアーチ」（上）

の欄間に描かれている鮮やかな極彩色の天女や牡丹の透かし彫りが見所となっています。(2)

【愛冠岬】

「正行寺本堂」から松葉町通り、実験所道路を通って「愛冠岬」へ向かいます（**地図⑥**）。「愛冠岬」は、厚岸湾の東岸に位置する絶景の岬で太平洋と断崖絶壁が織りなす風景を一望することができます。眼前に太平洋の大海原に浮かぶ大黒島・小島、眼下に筑紫恋（ちくしこい）海岸を望むことができます。「愛冠」の語源は、アイヌ語で「アイ・カップ」（矢の上のもの）を指し、「できない・届かない」という意味も持っていますが、「困難を乗り越え、愛の栄冠を得る」との思いで「愛冠岬」と名づけられました。

岬の突端には、美しい音色を響かせる「愛の鐘・ベルアーチ」があり、これを鳴らすと愛（想い）が叶うとも言われ、訪れる人たちの人気を博しています。この愛冠岬は令和３年（2021）に厚岸霧多布昆布森国定公園の区域として指定されています。

【愛冠自然史博物館】

「愛冠自然史博物館」と展示されている
鳥獣等の剥製（右）

「愛冠自然史博物館」は、愛冠岬への入り口に位置する、北海道大学北方生物圏フィールド科学センターの厚岸臨海実験所が運営している博物館で、昭和 24 年(1949)、大学の研究と教育に資する目的で設置されました（**地図⑦**）。厚岸臨海実験所は主に海洋生物の研究・教育を行っていますが、海洋生物だけでなく鳥獣その他生物全般の研究・教育も行うためにこの博物館を併せ持っています。ここでは、脊椎（せきつい）動物、無脊椎動物や化石、鉱物等約 2,000 点もの標本を常時展示しています。哺乳類（ほにゅうるい）の主な剝製（はくせい）展示物としてはヒグマ、エゾシカ、ゼニガタアザラシ等が、また鳥類としてはシマフクロウ（天然記念物）、タンチョウ（特別天然記念物）、オジロワシ（天然記念物）、エトピリカ、オオワシ等があります。特に道東に生息する希少動物の標本等が見どころです。

【北海道大学厚岸臨海実験所】

「愛冠自然史博物館」から「北海道大学厚岸臨海実験所」へ向かいます（**地図⑧**）。前述の「愛冠自然史博物館」を運営している「北海道大学厚岸臨海実験所」は、昭和５年（1930）の北海道大学理学部

「北海道大学厚岸臨海実験所」

創立時に寒流生物を主とする理学部附属臨海実験所として計画され、昭和６年（1931）にわが国でただ一つの寒流系生物の臨海実験所として開設されました。その当時、国内には四つの帝国大学に附属の臨海実験所がありましたが、いずれも暖流系の実験所でした（東京大学〈三崎〉、京都大学〈瀬戸〉、東北大学〈浅虫〉、北海道大学〈忍路〉）。厚岸周辺の海域は、沖合からの冷たい親潮の影響を強く受ける一方、暖流の影響をほとんど受けないことが特徴で、寒流域の生物を研究するには日本で最も適した環境でした。また、別寒辺牛川から別寒辺牛湿原、厚岸湖、厚岸湾、太平洋とつながる一連の水系は、人間活動の影響をあまり受けない原生の生態系が残されているため、そこに生息する寒流域の特徴的な生物に関する様々な研究を行うことができました。その後、厚岸臨海実験所は平成 13 年（2001）より北海道大学北方生物圏フィールド科学センター所属となりました。一般公開は平成８年（1996）に停止しましたが、現在、別寒辺牛川水系や厚岸湖、厚岸湾等に生息する様々な生物及び生態系を対象とした研究や、森林と海洋の関連性（つながり）等の研究が行われている他、北海道大学の学部学生、大学院生だけでなく、国内の他大学、さらには海外の大学の学生を対象とした臨海実習やフィールド演習等を開催しています。(3)

【厚岸漁港屋根付き岸壁（衛生管理型荷捌き施設】

「北海道大学厚岸臨海実験所」から湖南地区の「厚岸漁港屋根付き岸壁」へ向かいます（**地図⑨**）。厚岸漁港は、道内外のサンマ棒受網、サケ・マス流し網等の沖合漁業の全国有数の流通拠点として、また、昆布、牡蠣、アサリ等の沿岸・養殖漁業の生産拠点として重要な役割を担っています。当漁港は、この「屋根付き岸壁」の整備前は、陸揚げ拠点となっていた湖北地区の岸壁・用地が狭隘であるとともに、サンマ盛漁期においては荷捌所周辺に多数の漁業関係車両が集中するため、出荷車両との輻輳が発生し、危険かつ非効率な作業を強いられていました。また、消費者の水産物の安全・安心に対する要請に応えていくため、陸揚げから出荷までの全工程において、鳥糞等の異物混入防止や清浄海水の導入等ソフト・ハードの両面から衛生管理体制の強化が求められていました。これらのことから、狭隘な湖北地区から湖南地区に陸揚げ機能を移転し、効率的な車両等の動線を確保するとともに、屋根付き岸壁や清浄海水導入施設、高度な衛生管理に対応した荷捌き施設等を備えた総合的な衛生管理対策の拠点となる施設を整備することになり、令和２年（2020）、湖南地区第２ふ頭に「屋根付き岸壁（衛生管理型荷捌き施設）」が竣工しました。

この施設は、①鉄骨造り地上 2 階建ての「人工地盤」（1 階荷捌き施設、2 階漁港利用者駐車場、一時避難場所）や、②風雪や日射を避け水産物の品質低下を抑えるための-5.5m 岸壁・延長 247m、-4.5m 岸壁・延長 156m、岸壁屋根高さ（海側）12m の「屋根付き岸壁」、③魚体や荷捌き施設等をきれいな海水で洗浄できる「清浄海水導入施設」、④荷捌きや選別を衛生面に配慮して効率的に行うことができる「衛生管理型荷捌き施設」等からなります。この施設では、屋根付き岸壁側を「陸揚げゾーン」として利用し、また、それに隣接して「ICT を導入した

屋根付き岸壁（衛生管理型荷捌き施設）全景

衛生管理型荷捌き施設」を置き、さらに奥側を「出荷ゾーン」とすることにより、「海→陸揚げ→荷捌き→出荷」の一方向動線で衛生管理に配慮した鮮度の高い水産物の取り扱いを効率的に行うことができるようになりました。

この施設の利用により、今後、安全・安心な水産物の安定供給が図られ、ブランド強化や輸出促進等により地域水産業が一層、発展することが期待されます。(4)

【厚岸漁協直売店（エ-ウロコ）】

「厚岸漁港屋根付き岸壁」から厚岸大橋を渡って港町の「厚岸漁協直売店（エーウロコ)」へ行きます（**地図⑩**)。平成 12 年（2000）に開業したこの店は獲れたての海産物を豊富に取り揃えている厚岸漁業協同組合が運営する直売店で、観光客等多くのお客さんで賑わっています。店内は広々としていて、厚岸の特産物である牡蠣をはじめ、サンマや時鮭、毛ガニ、アサリなど北海道を代表する海産物やその加工品を販売しています。ここでは手軽に、厚岸のブランド水産物である、厚岸生まれ厚岸育ちの「カキえもん」や特大の鮮度の高い「大黒さんま」等を購入できます。牡蠣については、「カキえもん」の他、他地域の稚貝を厚岸で育てた「マルえもん」や、厚岸生まれの稚貝を帆立の貝殻に付着させ育てた「弁天かき」も販売しています。また、加工品では、牡蠣のオイル漬けや燻製（くんせい）、サンマの燻製やみりん干し等が人気です。この店頭販売に合わせネット販売も行っていて好評です。店内の奥にはイートインスペースがあり、生牡蠣や蒸し牡蠣、刺身等をつくってもらいその場で食べることができます。最近、漁村地域において地域資源を活かした食、観光、体験、交流等に係る新産業の創出が課題となっていますが、この施設は、そうした取り組みの一つといえます。

「厚岸漁協直売店（エーウロコ）」の外観（上）と販売されている海産物や加工品

「厚岸漁協直売店（エーウロコ）」には水槽に入っている厚岸産の新鮮な牡蠣も並ぶ

【道の駅厚岸グルメパーク（コンキリエ）】

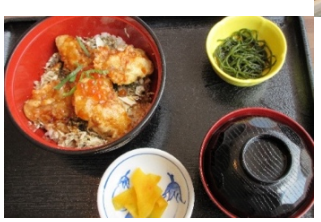
「道の駅厚岸グルメパーク（コンキリエ）」

「厚岸漁協直売店（エーウロコ)」から住の江の「道の駅厚岸グルメパーク（コンキリエ)」へ行きます（**地図⑪**)。厚岸湾と厚岸湖を一望できる、牡蠣をイメージした外観の、この施設は牡蠣を中心に厚岸の海産物を楽しめるグルメスポットです。「コンキリエ」とはイタリア語で貝の形をした食べ物の意味です。

1 階には観光案内所や、地元の加工品や名産品がそろった総合展示販売コーナー、喫茶コーナーがあります。また、水族館プティでは厚岸湾や厚岸湖に生息する魚や貝類を自由に観察できます。2 階には魚介市場やレストラン等があります。魚介市場では購入した新鮮な帆立、牡蠣等を隣接する「炭焼炙屋」で焼いて楽しめます。また「オイスターバール　ピトレスク」では大きな窓から厚岸の景色を眺めながら生牡蠣と厚岸ウイスキーを楽しむことができます。この店の「生牡蠣三点厚岸ウイスキーセット」は厚岸産生牡蠣と厚岸ウイスキーがセッ

「コンキリエ」展望コーナーからの市街地の眺望（中央に見えるのは厚岸大橋）

「コンキリエ」にある総合展示販売コーナー（上）と生簀がある魚介市場、右側奥には「炭焼炙屋」もある（右）



かき弁天島丼を食した「レストラン エスカル」では、豊富な牡蠣メニューが揃っている

トになっていて人気です。食事は「レストラン エスカル」で、かき弁天島丼を注文しました。この丼物はごはんの上におぼろ昆布がのっていてその上に甘だれのついた牡蠣の天ぷらとイクラがのっているものです。創業当時からのメニューだそうで甘だれと牡蠣天ぷらがマッチしていました。ここでは、このメニューの他、大粒の厚岸産カキフライの「金のカキフライ」や、かきめし・生牡蠣・焼牡蠣等いろいろな牡蠣料理を一度に楽しめる「かきめし御膳」等が好評だそうです。

なお、この施設の 3 階は展望コーナーとなっていて厚岸湾や厚岸の市街地、厚岸漁港等を一望できます。また、「コンキリエ」では、体験型観光として、厚岸湖のアサリ掘り体験ツアーや、厚岸蒸留所見学ツアー等の企画も行っています。

【厚岸蒸留所】

「道の駅厚岸グルメパーク（コンキリエ）」から別寒辺牛湿原の近くにある宮園の「厚岸蒸留所」へ向かいます（**地図⑫**）。堅展実業株式会社の「厚岸蒸留所」は道東初のウイスキー蒸留所として平成 28 年（2016）に製造が始められました。厚岸町は冷涼で湿度の高い気候や、ピート（泥炭）層の存在、ピート層で濾過された清冽な仕込み水があること等、ウイスキーの聖地であるイギリスのスコットランドのアイラ島に似た環境を持っています。そのため、スコッチウイスキーと共通する風味を持ったウイスキーの製造が可能であり、スコットランドの伝統的な製法を取り入れたウイスキーづくりが行われています。そして令和 2 年（2020）、厚岸蒸留所初の熟成期間 3 年超となる、大麦の麦芽で造った純国産シングルモルトウィスキー「サロルンカムイ」が発売され好評を博しました。「サロ

「厚岸蒸留所」の蒸留棟

スコットランド・フォーサイス社製の蒸留器（厚岸蒸留所 HP より）

ルンカムイ」はアイヌ語で「湿地にいる神」を意味し「タンチョウ」を指します。その後、寒露、立春等の季節の移り変わりを表した伝統的な暦の仕組みを名に冠した「二十四節気（にじゅうしせっき）シリーズ」等、様々なウイスキーが造られ日本及び世界の品評会で高い評価を得ています。また数年前から造られている、モルトウイスキーと、トウモロコシ等から造ったグレーンウイスキーを混ぜた「厚岸ブレンデッドウイスキー 牡蠣の子守唄」は、町民が厚岸ウイスキーをなかなか手に入れにくい状況にあるため町民に楽しんでもらおうと特別に造られたもので町内の飲食店でのみ提供されています。このネーミングは厚岸ウイスキーと、厚岸名産の牡蠣とが同じ厚岸湾の潮騒（しおさい）を子守唄にして熟成しているという意味だそうで、このボトルのラベルは令和 8 年（2026）の東京の品評会でベストデザイン賞部門の金賞を受賞しています。現在、この蒸留所が目指しているのは、ウイスキーの原料である大麦やピート、仕込み水から熟成させる樽に至るまですべてを厚岸の産品で調達してつくる、厚岸産モルトウイスキーの「厚岸オールスター」で、すでに町産の大麦やミズナラの樽等を使い始めています。

現在、この蒸留所では一般の方々への施設見学は行っていませんが、「道の駅厚岸グルメパーク（コンキリエ）」が主催する見学ツアーではこの蒸留所施設の案内が行われています。(5)

（関野高志　記）

厚岸町民のために造られた「厚岸ブレンデッドウイスキー 牡蠣の子守唄」（厚岸蒸留所 HP より）

参考文献

(1) 添田雄二[1]、七山太[2]、熊崎農夫博[3]、堤康夫[3]、車塚洋[3]、桂川実[3]、山田悟郎[1]、赤松守雄[1]

[1] 北海道開拓記念館

[2] 独立行政法人 産業技術総合研究所 海洋資源環境研究部門

[3] 厚岸町海事記念館：

「平成 15 年度厚岸湖・別寒辺牛湿原学術研究奨励補助金実績報告書「厚岸町史跡国泰寺跡の泥炭層中において発見された津波痕跡 」」、平成 15 年（2006）

(2) 北海道近代建築研究会編：

「道東の建築探訪」、平成 16 年（2007）

(3) 厚岸町史編集員会編：

「新厚岸町史通史編第二巻」、令和 2 年（2020）

(4) 佐藤大地：

「厚岸漁港衛生管理型対策施設の整備について」、令和 4 年度（第 20 回）全国漁港漁場整備技術研究発表会、令和 4 年（2022）

(5) 月刊 SHOKOKAI（商工会）令和 5 年 12 月号（全国商工会連合会）：

「「厚岸ウイスキー　牡蠣の子守唄」（堅展実業株式会社厚岸蒸留所）」、令和 5 年（2023）

【今回の巡回ルート】

❶子野日公園→ ❷厚岸町海事記念館

❷ → ❸厚岸町郷土館→ ❹国泰寺跡→ ❺正行寺本堂

❺ → ❻愛冠岬→ ❼愛冠自然史博物館→ ❽北海道大学厚岸臨海実験所

❽ → ❾厚岸漁港屋根付き岸壁→ ❿厚岸漁協直売所（エーウロコ）
❿ → ⓫道の駅厚岸グルメパーク（コンキリエ）→ ⓬厚岸蒸留所

【今回の巡回ミニ情報】

地図①
子野日公園
厚岸町奔渡 6 丁目 9 番
電話　0153-52-3131
（厚岸町役場観光商工課）
開園期間　通年

地図②
厚岸町海事記念館
厚岸町真栄 3 丁目 4 番地
電話　0153-52-4040
定休　月曜日、国民の祝日の翌日
営業時間　9:00～17:00

地図③
厚岸町郷土館
厚岸町湾月町 1 丁目 2 番地
電話　0153-52-3794
定休　月曜日、国民の祝日の翌日
営業時間　9:00～16:00
（4 月 16 日から 11 月 15 日）

地図④
国泰寺跡
厚岸町湾月町 1 丁目
電話　0153-52-3064（国泰寺本堂）
※国泰寺跡の拝観は自由です。国泰寺本堂を観覧希望の場合は、事前に連絡してください。

地図⑤
正行寺本堂
厚岸町梅香 1 丁目
電話　0153-52-2443
※観覧希望の場合は、事前に連絡してください。

地図⑥
愛冠岬
厚岸町愛冠 5 番地
電話　0153-52-3131
（厚岸町役場観光商工課）
※散策自由

地図⑦
愛冠自然史博物館
厚岸町愛冠
電話　0153-52-2056
（北海道大学厚岸臨海実験所）
定休　月曜日、火曜日
営業時間　9:00～16:30
（5 月 1 日から 10 月 31 日）

地図⑧
北海道大学厚岸臨海実験所
厚岸町愛冠 1 番地
電話　0153-52-2056
※一般公開はしていません。

地図⑨
厚岸漁港屋根付き岸壁
（衛生管理型荷捌き施設）
厚岸町湖南地区
電話　0153-52-3151
（厚岸漁業協同組合）
※見学は施設利用者（厚岸漁業協同組合）に問い合わせてください。

地図⑩
厚岸漁協直売所（エーウロコ）
厚岸町港町 5 丁目 3 番地
電話　0153-52-0117
定休　毎週火曜日、毎月第 1 木曜日
営業時間　10:00～16:00

地図⑪
道の駅厚岸グルメパーク（コンキリエ）
厚岸町住の江 2 丁目 2 番地
電話　0153-52-4139
定休　月曜日、7 月・8 月は無休
営業時間　9:00～20:00（4 月～9 月）
10:00～19:00（10 月～12 月）
10:00～18:00（1 月～3 月）

地図⑫
厚岸蒸留所
厚岸町宮園 4 丁目 109-2
電話　0120-66-1650（お客様センター）
※一般の方々への施設見学、製品の販売は実施していません。施設見学は「道の駅厚岸グルメパーク（コンキリエ）」がツアーを実施。そちらへ申し込んでください。

＜連絡先＞
NPO 法人　北海道みなとの文化振興機構
札幌市北区北 11 条西 2 丁目 2-17 セントラル札幌北ビル 5 階
e-mail アドレス　mail@minatobunka-npo.info
ホームページ　https://minatobunka-npo.info